

# 令和5年度 第1回吉田高校学校運営協議会

令和5年4月15日(土)  
9:30～  
吉田高校朝日子ホール

## 次 第

- 1 開会の言葉
- 2 委嘱状交付
- 3 学校長あいさつ
- 4 学校運営協議会委員、学校職員紹介
- 5 吉田高等学校学校運営協議会会長等選出(互選)  
会長・副会長挨拶
- 6 議事
  - (1) 令和5年度吉田高等学校学校運営方針について
  - (2) 令和6年度生徒募集について
  - (3) 令和5年度山梨県立吉田高等学校学校評価計画について
    - ① 令和4年度学校評価報告書について
    - ② 令和5年度学校評価計画について
  - (4) その他
    - ① 令和4年度卒業生及び過去5年間の進学実績について
    - ② 「総合的な探究の時間」等について
- 7 報告事項
  - (1) 令和5年度年間行事予定について
  - (2) その他
- 8 閉会の言葉

## 令和5年度 吉田高等学校運営協議会委員

令和5年4月1日

鶴田 清司	都留文科大学名誉教授
井出 智子	元PTA役員 富士山みはらし専務取締役
中村 義仁	PTA役員
高村 明成	PTA役員
高保 裕樹	元吉田高等学校長 同窓生
正木 啓子	山梨大学学生サポートセンターカウンセリング・サポート室職員
堀内 淳	富士吉田市学校教育課長
栗井 晶子	公益財団法人栗井英朗環境財団理事長
萱沼 孝夫	富士吉田市商工会議所青年部直前会長
渡邊 太郎	渡小織物代表
村松 悟	富士見台中学校校長
梶原 正彦	河口湖南中学校校長
権太 正弘	吉田高等学校校長

# 令和5年 吉田高等学校第1回運営協議会座席表

令和5年4月15日(土)  
9:30~  
吉田高校朝日子ホール

舞台

議長

司会

鶴田委員

正木委員

井出委員

栗井委員

中村委員

萱沼委員

高村委員

渡邊委員

高保委員

村松委員

学校職員席

権太委員

出入口

# 山梨県立吉田高等学校 学校運営協議会の運営等に関する要綱

## (趣旨)

第1条 この要綱は、「山梨県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」及び「山梨県立学校における学校運営協議会の運営等に関する要綱」に基づき、山梨県立吉田高等学校（以下「吉田高校」という。）に設置する学校運営協議会（以下「協議会」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

## (協議会の設置)

第2条 山梨県教育委員会（以下「教育委員会」という。）は吉田高校に協議会を置く。

2 前項の協議会は教育委員会及び校長の権限と責任の下、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者及び地域住民等による学校運営への支援・協力を促進することにより、学校と保護者及び地域住民等との間の信頼関係を深め、学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組むものとする。

## (基本的な方針の承認)

第3条 校長は、次の各号に掲げる事項について、毎年度基本的な方針を作成し、協議会の承認を得るものとする。

- (1) 教育目標及び学校経営計画に関すること
- (2) 教育課程の編成に関すること
- (3) その他校長が必要と認めること

2 校長は、前項の規定により承認された基本的な方針に従って学校運営を行うものとする。ただし、承認が得られない特別な事情がある場合は、校長は承認を得ずに学校運営を行うことができる。

3 前項でいう特別な事情とは、次に掲げる事項とする。

- (1) 協議会の委員（以下「委員」という。）同士の意見が対立して協議会として合意形成が行えない場合
- (2) 協議会としての活動の実態が認められない場合
- (3) 校長と協議会の方針が対立し、学校の円滑な運営に著しい支障を生じるおそれがあると認める場合
- (4) 一部又は全部の委員による偏った運営がなされていると認められる場合
- (5) その他学校運営協議会の運営が適正を欠いていると認められる場合
- (6) やむを得ない理由により協議会の開催ができない場合

## (意見の申し出)

第4条 協議会は、前条第1項各号に掲げる事項のほか、吉田高校の運営全般について校長又は校長を経由して教育委員会に対して、意見を述べることができる。

2 協議会は、吉田高校の職員の任用に関して次に定める事項について、校長を経由して教育委員会に対して意見を述べるることができる。ただし、特定の個人に関するものを除くものとする。

- (1) 学校運営の基本方針の実現に資する建設的な意見
- (2) 学校の教育上の課題を踏まえた一般的な意見

(学校運営等に関する評価)

第5条 協議会は、毎年度1回以上、吉田高校の運営状況等について評価を行うものとする。

(委員の委嘱)

第6条 委員は15名以内とし、次の各号に掲げる者のうちから校長の推薦により教育委員会が委嘱又は任命(以下「委嘱」と総称する。)する。ただし、次の第1号から第4号に掲げる者は、協議会の委員に必ず含めるものとする。

- (1) 吉田高校の所在する地域の住民
- (2) 吉田高校に在籍する生徒の保護者
- (3) 吉田高校の運営に資する活動を行う者
- (4) 校長
- (5) 吉田高校の教職員
- (6) 学識経験者
- (7) 関係行政機関の職員
- (8) 吉田高校の所在する地域の産業界等の代表者
- (9) その他教育委員会が適当と認める者

2 委員の辞職等により欠員が生じた場合には、教育委員会は速やかに新たな委員の委嘱を行うものとする。

3 委員は、特別職の地方公務員の身分を有する。

4 委員以外の者も協議会の求めに応じて意見を述べることができる。

(守秘義務等)

第7条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

2 前項のほか、委員は、次の各号に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 委員たるにふさわしくない非行を行うこと
- (2) 委員としての地位を営利行為、政治活動、宗教活動等に不当に利用すること
- (3) その他、協議会及び吉田高校の運営に著しく支障をきたす言動を行うこと

(任期)

第8条 委員の任期は、委嘱の日から当該委嘱の日が属する年度の末日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の在任期間とする。

2 委員の再任は、妨げない。ただし、連続して5期を超えないものとする。

(会長及び副会長)

第9条 協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により選出する。また、校長及び教職員は会長及び副会長の職に就くことはできない。

2 会長が会議を招集し、議事を掌る。原則として会長が会議の議長となる。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を行うものとする。

(議事)

第10条 協議会は、会長が、校長と協議の上、開催日前に議案を示して招集する。ただし、緊急を要する場合には、この限りでない。

2 協議会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

- 3 協議会の会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 4 議事について利害関係を有する委員は、当該議事に参与することができない。
- 5 会長は、議事について会議録を作成し、保管しなければならない。

(部会)

- 第11条 協議会は、協議会の円滑な運営を図るとともに、具体的な事項を検討するため、協議会に部会を置くことができる。
- 2 部会で検討した事項は、協議会に報告する。
  - 3 部会の運営その他部会に関し必要な事項は、別に定める。

(協議会の会議の公開)

- 第12条 協議会の会議は、次に掲げる場合を除き公開する。
- (1) 吉田高校の職員の採用その他の任用に関する事項について協議するとき
  - (2) その他特別の事情により協議会が必要と認めたとき
- 2 協議会の会議を傍聴しようとする者は、あらかじめ会長に申し出なければならない。
  - 3 傍聴人は、会議の進行を妨げる行為をしてはならない。
  - 4 協議会は、協議会の会議の全部又は一部を非公開とすることを決定した場合は、その理由を明らかにしなければならない。

(協議会の会議の周知)

- 第13条 会長は、協議会の会議の開催日について、学校のホームページ等の適切な方法により県民に対する周知に努める。ただし、協議会の会議を緊急に開催する必要性が生じたとき等やむを得ない場合はこの限りでない。

(協議結果等の公表)

- 第14条 会長は、協議会の会議の公開、非公開にかかわらず、協議会の会議の終了後、議事録を作成するとともに、協議会の会議の議題及び議事の進行状況が分かる会議の概要を学校のホームページ等に掲載するよう努めるものとする。
- 2 協議会の会議資料及び議事録等の公開に当たっては、山梨県情報公開条例第8条各号に該当する事項の取扱いに十分留意する。また、委員の個人情報（氏名、職業、地位、会議の出欠、会長等の別等）を公開する場合は、方法及び内容について、事前に本人の了承を得る。

(委員の解嘱)

- 第15条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、委員を解嘱又は解任（以下「解嘱」と総称する。）することができる。
- (1) 本人から辞任の申出があったとき
  - (2) 第7条の規定に違反したとき
  - (3) 心身の故障のため職務を遂行することができないとき
  - (4) その他解任に相当する事由が認められるとき
- 2 校長は、委員が前項各号のいずれかに該当すると認められる場合は、直ちに教育委員会に報告しなければならない。
  - 3 教育委員会は、委員を解嘱する場合には、その理由を示すとともに、当該委員から意見陳述の機会を与えることを求められたときは、これを認めなければならない。

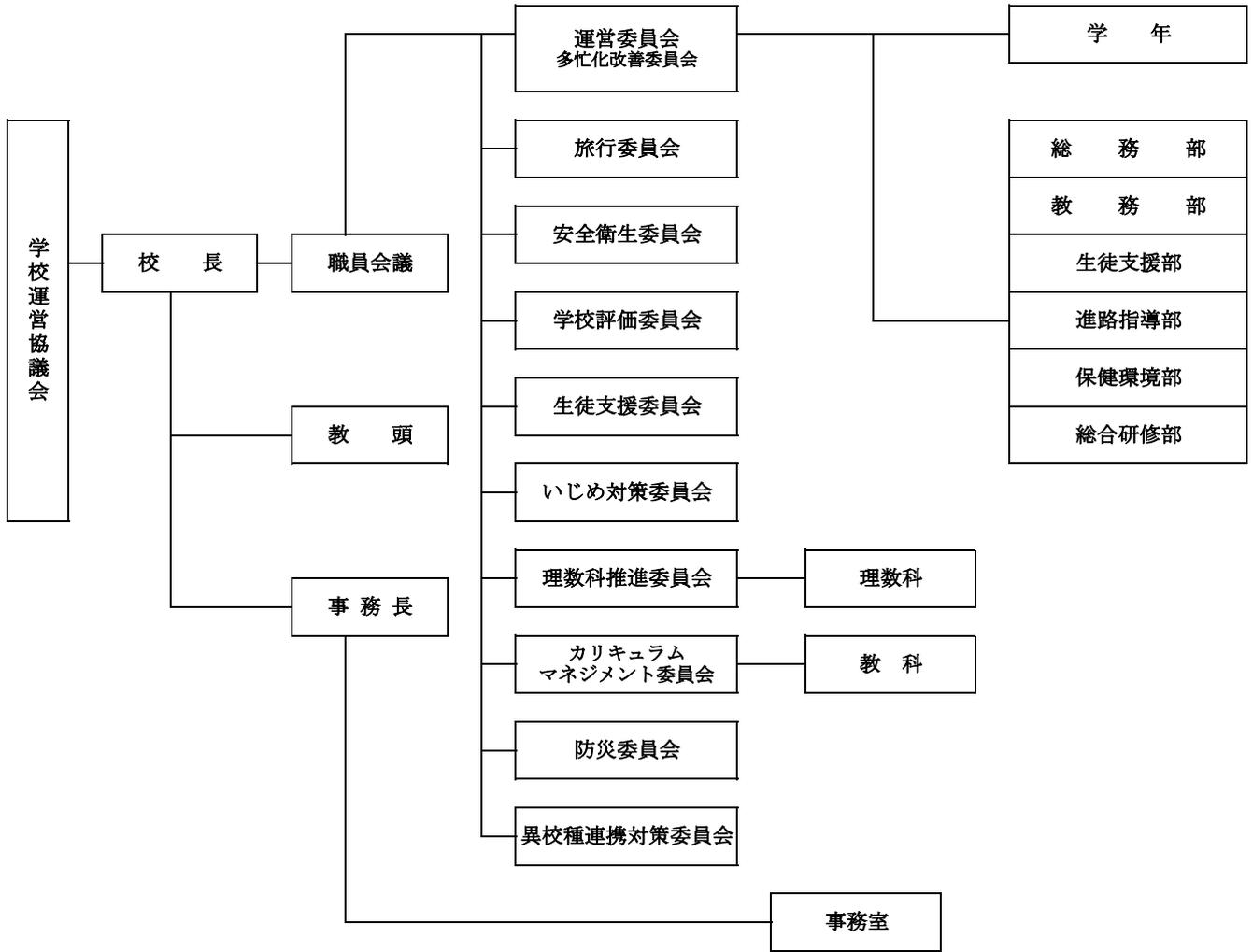
(委任)

第16条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営やその他協議会に関し必要な事項は、協議会が別に定める。

附則

この要綱は、令和3年4月1日から施行する。

吉田高等学校運営組織図



学校運営協議会事務局  
 事務局長 野澤 俊英  
 副事務局長 小佐野 寛  
 事務局員 小佐野 拓  
           志村 和美  
           萱沼 徳重  
           村松 親志

## 令和5年度 教育目標・学校経営目標・指導重点 スクール・ミッション 及び スクール・ポリシー

### 1 県立学校としての吉田高校のミッション

吉田高等学校は、富士・東部地域唯一の理数科をもつ伝統校であり、地域に根ざしたコミュニティ・スクールとして、主体性や探究心を高めるとともに、高度な情報社会を生き抜く力を育て、郷土を愛する心をもった日本のリーダーとなる人材を育成する学校を目指します。

### 2 スクール・ポリシー（吉田高校スクール・ポリシー（YSP））

スクール・ミッションを達成するために、本校では、「純剛」（明るく爽やかで、意志強く、飾らないこと）と「百折不撓」（何度困難にあっても決してくじけないこと）の校訓のもと、学習（「文」）と部活動（「武」）を両立させるとともに、文と武の双方において、感謝の心・友情・心身の鍛練・情操の涵養を図ります。「質の高い文武両道を保障する環境」の中で、次の教育方針に従って高等学校教育を行います。

#### ○目的:「Yoshida PRIDE を持って未来を生き抜くことができる生徒を育成する」

※Yoshida PRIDE とは・・・

「何事にも自らの考えを持って主体的に臨み、他者を尊重するしなやかな心」を表します。

※未来を生き抜くためには・・・

過去に学び、現在を知り、未来を考える手法を学ぶことが必要であると考えます。言い換えれば、「何事にも自らの考えを持って主体的に臨み、他者を尊重するしなやかな心（多様性を受容する姿勢）を持ち、過去に学び、現在を知り、未来を考える資質・能力を備えた生徒を育成する」を教育の目的とします。

### 3 グラデュエーション・ポリシー（吉高GP）（育成を目指す資質・能力に関する方針）

上記の目的を達成するために、「質の高い文武両道を保障する環境」と「地域社会的、物的資源を利用する環境」の中で、何事にも自らの考えを持って主体的に臨み、他者を尊重するしなやかな心未来を生き抜くことができる人材を育むために、次の汎用的な8つの力を3年間を通して身に付けることを目標とします。

吉高 GP の 8 つの力とは

- ① 自己肯定力 …… 短所も含めて、自分を認める力を身につけます
- ② 傾聴力 …… 他者の意見を謙虚に聞く習慣を身につけます
- ③ 分析力 …… 事実を客観的に分析する習慣を身につけます
- ④ 思考力 …… 物事を鵜呑みせず、「何故か」を考える習慣を身につけます
- ⑤ 発信力 …… 自分の考えを、わかりやすく他者に伝える方法を身につけます
- ⑥ 想像力 …… 未来（結果）を考え、想像する力を身につけます
- ⑦ 創造力 …… 課題を解決する方法を創造する力を身につけます
- ⑧ 行動力 …… 自分の考えに基づき、行動する力を身につけます

#### 4 カリキュラム・ポリシー（吉田高校CP）（教育課程の編成及び実施に関する方針）

複雑化・多様化する現代社会の現状を踏まえ、地域社会や我が国、世界が抱える現代的な諸課題に積極的に関わり、地域社会や日本社会、国際社会の持続的発展に寄与するために必要な資質・能力を育成するための領域横断的な学びに重点が置かれた、特色・魅力ある教育が求められていることに鑑み、吉高GPに示す資質能力を育むための教育課程編成及び実施の基本方針は以下のとおりです。

- (1) Yoshida PRIDE を持って未来を生き抜くことができる生徒を育成するために、系統的な知識及び技能を育て、それらを活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、豊かな人間性を育み、そこから再構築された統合的な知見を身に付ける教育課程を編成しています。さらに、社会的課題の分析や解決に資する「見方・考え方」を鍛えていく最先端の学びを実現することを目指します。
- (2) 各教科科目の学びから再構築された統合的な知見に関する学びや、地域社会の課題や魅力に関連させた実践的な学びなどにおいて、吉高GPに対応する学びとして、探究活動に取り組み、特色・魅力ある教育課程を編成・実施することを目指します。
- (3) 教育課程の編成に当たって、普通科は、高度で多様な進路希望に応えるために、1学年に習熟度の高いクラスを導入し、2年次以降は、文系理系類型を開設しています。また理数科は、共通科目を中心に履修することができるように必教科科目を中心に配置し、2年次以降には、文系・理系の類型に分かれて履修できるようにしています。また教育課程の実施に当たっては、45分授業×7校時制で受講時数を確保し、生徒の特質に応じて国語・数学・英語・地歴・理科などの教科でパート展開しています。
- (4) 吉高GP実現のために、縦軸（3年間通じて）、横軸（教科横断）の視点で3年間の教育全体を俯瞰する教育課程の編成を目指しています。各教科・科目や総合的な探究の時間を各年次にわたって体系的に関連づけることにより、社会との関わりの中で生徒自身が自己の在り方生き方を考えるとともに、各教科・科目等と総合的な探究の時間を往還する学習を実現していくことを目指します。
- (5) 「社会に開かれた教育課程の実現」と「高等学校を核とした地方創生の実現」の好循環の基盤づくりという観点からの体制構築が必要となることに鑑み、学校運営協議会をとおして地元の市町村、高等教育機関、企業・経済団体、社会教育機関、NPO法人、小中学校等との連携・協働を実現するネットワークの構築をすすめ、関係機関には、フィールドワーク先としての協力や社会人講師の派遣等による連携を求めて参ります。
- (6) 大学進学を希望する生徒が多いことを踏まえて、多様な進路希望に応えるために、上級学校が求める知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう姿勢を身に付けることができる教育課程の編成を行います。また、必履修教科科目以外に、学校設定科目を設置することを通して、生徒が希望する進路実現のための効果的効率的な教科科目の配置する教育課程の編成を行います。

## 5 アドミッション・ポリシー（吉田高校AP）（入学者の受け入れに関する方針）

- (1) 本校の教育方針や特色、普通科・理数科の特性についてよく理解し、将来の目標を持ち、その実現に必要な課題に積極的に取り組む強い意志を持っている生徒を求めます。
- (2) 周囲と協働できる豊かな人間性を備えている生徒を求めます。
- (3) グローバルな視野をもって主体的に行動し、リーダーシップを発揮できる生徒を求めます。
- (4) 多様な能力・適性や興味・関心を持つ生徒が自分に合った進路を的確に選択できるようにするという視点から、学力検査や中学校が提出する調査書以外で、受検者の中学校段階までの多様な活動を評価して入学者を選抜します。
  - ①普通科においては、出席状況が良好で、学習意欲と知的探究心に溢れる生徒のうち、学習成績が優秀で、学校行事・生徒会活動・ボランティア活動・英検などの各種検定取得に積極的に取り組んだ生徒や学習成績が優良で、体育活動あるいは文化活動において、県レベル以上の大会で優秀な成績を収めた生徒、または同等の能力を有している生徒のうち、高校入学後も引き続き諸活動に取り組もうとする強い意志をもつ生徒。なお、団体の場合は、中心となって活躍した生徒を求めます。
  - ②理数科においては、出席状況が良好で、学習意欲と知的探究心に溢れる生徒のうち、学習成績が極めて優秀で、理数教科にも関心を持ち、学校行事・生徒会活動・ボランティア活動・英検などの各種検定取得に積極的に取り組んだ生徒を求めます。

## 6 学校経営目標

学校運営協議会設置を通して、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や学校運営への支援・協力を得ることにより、学校と保護者及び地域住民等との間の信頼関係を深め、学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組む。

- (1) 学校内で行われるすべての活動を、「教育目標」の視点で繋ぎ、検証、改善を行うカリキュラ・マネジメントを推進する。
- (2) 授業を基盤に、学校行事やクラブ活動に打ち込むことができる環境づくりを通して、生徒の主体性を育むきめ細かな指導に努める。
- (3) 学校生活を通し、挑戦することや打ち込むことの楽しさを実感できる環境を提供する。
- (4) 学校運営協議会の場を活用して地域社会の参画・協力を得て協議を行い、地域・家庭・関係機関と連携し、生徒の心に向き合った指導に努めるとともに、地域に開かれ信頼される学校、安全な学校づくりに努める。また様々な手段で積極的な情報公開に努める。
- (5) 業務改善を進め、教員が生徒と向き合う時間を確保できる学校づくりに努める。

## 7 今年度の指導重点

高等学校学習指導要領の本格実施にあたり、教育目標・内容と学習・指導方法・学習評価の在り方を一体として捉えて、教育活動をさらに充実する。

### (1) 生徒の知識活用力を高める

- ① 吉高GPを常に意識し、生徒が主体的に参加する授業を実施する。
- ② 評価を適切に行い、生徒の自己有用感、自己肯定感の高揚を図る。
- ③ 生徒の個人用学習端末・校内のICT機器を効果的に利活用すると共に、授業と連動した課題を設定し、知識の活用・定着を図る。

### (2) 生徒の主体性を高める

- ① 常に「分析、思考、創造」を促し、発信する機会の提供を意識した指導を行う。
- ② 身の回りに存在する課題を発見し、他者との関係の中で「傾聴し、想像を共有し」行動することができる生徒像を意識した指導を行う。
- ③ 自分の言動や行動に責任を持ち、自ら行動する態度を養う。
- ④ 「切替」と「集中」を意識した学校生活の指導を行う。

### (3) 人とのかかわりの中で生きていることを自覚させる

- ① 周囲との関わりの中で、自己有用感を養う。
- ② 社会の一員として社会に関心を持ち、未来の社会について考える態度を養う。
- ③ ユネスコスクールへの加入を通して他国の同世代の高校生とのネットワーク構築をめざす。
- ④ ESDパスポートを活用し、ボランティア精神を養う。
- ⑤ 礼節を重んじ、自立した人間として他者とよりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

## 8 今年度のスローガン

**「やらまいか」**

※困難に立ち向かい「やっしまおう」という積極的な言葉

## 山梨県立吉田高等学校

## 1 教育方針

《校訓》 「純剛(じゅんごう)」「百折不撓(ひやくせつふとう)」

本校は、「純剛」(明るく爽やかで、意志強く、飾らないこと)と「百折不撓」(何度困難にあっても決してくじけないこと)の校訓のもと、「Yoshida PRIDEを持って未来を生き抜くことができる生徒を育成する」ことを目的に、「質の高い文武両道を保障する環境」の中で、吉田高校グラデュエーション・ポリシー(吉高G P)を教育目標として掲げ、「自己肯定力・傾聴力・分析力・思考力・発信力・想像力・創造力・行動力」を身につけるための教育に取り組みます。

《学校の特色》

## (1) 授業・学校行事

- 前期・後期の2学期制と45分7校時授業で、授業時間を確保するとともに、きめ細かな学習指導により、生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばします。
- 対話的な授業やICT機器の効果的な利活用をとおして、生徒の主体的な学びを育てます。
- 普通科には習熟度が高いクラスを設置し高度な進路希望に対応するとともに、2年次からは多様な進路希望を実現するために文系・理系のコースを設置し、質の高いきめ細やかな学習指導を行います。
- 総合的な探究の時間「富士山学」の中で、課題解決に向けて教科横断的な学習を行い、探究的・主体的な態度と活用能力・表現力を養い、同時に郷土を愛する心をも育てます。
- 土曜日にオープン・スタディ(学力向上講座と意欲向上講座)を実施し、進路実現をサポートします。
- 富士登山強歩大会をはじめ、吉高独自の伝統的行事が多くあります。
- ボランティア活動を一定条件で単位認定するとともに、日本ユネスコ協会から認定証も交付されます。

## (2) 生徒会活動・部活動

- 生徒会本部や各委員会が中心となり、蒼風祭や体育祭など、多くの生徒会行事を活発に行っています。
- 放課後3時間(平日)の部活動の時間を確保するなど、学業と部活動の両立を実現できる環境を提供しています。
- 現在、約90%の生徒が部活動(体育局21部、文化局13部)に熱心に参加し、活躍しています。  
また、山梨県高等学校強化指定運動部に指定されている部が多くあり、毎年、関東・全国大会に出場し、活躍しています。

## (3) 学校生活

- 担当学年の教員が中心になって、生活全般にわたってきめ細かい指導を行っています。
- 養護教諭とスクール・カウンセラーが、学校生活の悩みや心配事の相談に応じています。
- すべての普通教室は雄大な富士山を仰ぎ見る配置となっており、同窓会館、自習室や学生ホールなどの最新設備の整った快適な学習環境の中で、充実した学校生活が送れます。
- 本校独自の「渡辺貢奨学会」があり、学校生活のサポートを受けることができます。

## 2 志願してほしい生徒像

- (1) 本校の教育方針や特色をよく理解し、将来の目標を持ち、その実現に必要な課題に積極的に取り組む強い意志を持っている生徒。
- (2) 周囲と協働できる豊かな人間性を備えている生徒。
- (3) グローバルな視野をもって主体的に行動し、リーダーシップを発揮できる生徒。

## 3 前期募集選抜方法

## (1) 募集定員に対する募集率

普通科	20%以内
理数科	15%以内

## ハイスクールガイド

## (2) 出願の条件

普通科 志願してほしい生徒像に合致し、出席状況が良好で、学習意欲と知的探究心に溢れる生徒のうち、次の条件A、条件Bのいずれかに該当する生徒。

条件A 学習成績が優秀で、学校行事・生徒会活動・ボランティア活動・英検などの各種検定取得に積極的に取り組んだ生徒。

条件B 学習成績が優良で、体育活動あるいは文化活動において、県レベル以上の大会で優秀な成績を収めた生徒、または同等の能力を有している生徒のうち、高校入学後も引き続き諸活動に取り組もうとする強い意志をもつ生徒。なお、団体の場合は、中心となって活躍した生徒とする。

理数科 志願してほしい生徒像に合致し、出席状況が良好で、学習意欲と知的探究心に溢れる生徒のうち、学習成績が極めて優秀で、理数教科にも関心を持ち、学校行事・生徒会活動・ボランティア活動・英検などの各種検定取得に積極的に取り組んだ生徒。

## (3) 面接

実施のねらい	実施形態等	検査時間
人物、意欲、適性などをみて、受検する科の「出願の条件」に合致している生徒かどうかを確認する。	個別面接	10分程度

## (4) 本校で定める検査

検査方法	検査内容
特色適性検査	普通科 時間：60分 理数科 時間：70分
特技	「活動実績申告書」・「活動に関する説明書」等による書類審査

## (5) 選抜資料比重

区分	調査書	面接	所見	特色適性検査	特技	備考
条件A	40	15	5	40	—	前期募集人員の45%程度
条件B	30	20	5	15	30	前期募集人員の55%程度
理数科	30	15	5	50	—	

※調査書の「学習の記録」については、第1学年から第3学年までの成績評定を対象とする。

## (6) 提出書類等

- ①提出書類 独自様式「活動実績申告書」
- ②添付書類 実績を証明できる資料（賞状・新聞記事・スコアブックなどのコピー、A4サイズ）
- ③書類の入手方法 本校ホームページからダウンロードできる（11月を予定）。

# 令和4年度 山梨県立吉田高等学校 学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	Yoshida PRIDE を持って未来を生き抜くことが出来る生徒を育成する
-----------	--

## 山梨県立吉田高等学校 校長 古屋 勇 人

本年度の重点目標	1 生徒の知識活用能力を高める
	2 生徒の主体性を高める
	3 人とかかわりの中で生きていることを自覚させる
	4 「働き方改革」を踏まえて業務の見直しを図る

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標		年度末評価(2月20日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	生徒の知識活用能力を高める	※1 吉田高校グラデュエーション・ポリシーを意識し、生徒の主体性をさらに育成する授業を実施する。	外部アンケート等
		評価を適切に行い、自己肯定感の高揚を図る。	外部アンケート等
		授業と運動した課題を設定し、知識の活用定着を図る。	外部アンケート等
2	生徒の主体性を高める	常に「分析し、思考し、創造し、発信する」機会の提供を意識した指導を行う。	外部アンケート等
		自己の課題を発見し、他者との関係の中で「傾聴し、想像を共有し、行動する」ことができる生徒像を意識した指導を行う。	外部アンケート等
		日常生活、行事を通じて、自分の言動に責任を持ち、自ら行動する態度を養う指導を行う。	外部アンケート等

学校関係者評価	
実施日 (令和5年2月23日)	
評価	意見・要望等
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後とも、吉高GPの意識化を図ってほしい。</li> <li>・吉高GPは、確実に浸透していると感じる。ただ、とするとマンネリ感も出てくるころだとも思うので、創意工夫してさらなる浸透を図ってほしい。</li> <li>・吉高GPについて、生徒たちがしっかり理解していることは、学校内の様子を垣間見る時に感じる。しかし、吉高GPを実践できている生徒については、不足感を感じる。今後は、理解と実践を組み合わせた指導が求められると思う。</li> <li>・吉高GPが浸透し、意識化されていることは評価できる。しかし一方で、学年によるばらつきがある。学年が進むにつれて、吉高GPの深化が図られるように、学校全体として継続して取り組むことが求められる。</li> <li>・吉高GPに対する意識が、生徒・教職員・保護者とも非常に高く、素晴らしい。自己肯定感の向上は難しいが、「一つでも多くのことを知っていること、一つでも多くのことをやったこと」が自己肯定感に直結すると思う。自己肯定感の基礎を支える部分の指導を、大切にしてほしい。</li> <li>・吉田高校は地域のリーダー校であり、進学校でありながら、部活動でも大きな実績を挙げており、素晴らしい。吉田高校は、非常にバランスの取れた高校である。引き続き、文武両道を実践し、その良さや魅力を学校外に積極的にアピールしてほしい。また、吉高GPは具体的な目標の指標になっており、大変魅力的である。吉高GPに対する生徒の意識も、年々高まっていると感じている。吉高GPを今後も大切にしてほしい。</li> <li>・電気代の高騰を踏まえ、省エネの意識の向上を高めてほしい。</li> <li>・省エネへの取り組みについては、家庭教育が大きく影響すると思うが、学校では生徒が楽しみながら「見える化」を実践し、継続的な取り組みが重要であると思う。</li> <li>・習熟度別クラスの導入については、賛否両論があると思うが、地域の基幹校である吉田高校には、地域や国を担うリーダーを育てる責任があると思うので、ぜひ推進してほしい。</li> <li>・各種アンケートに、丁寧に回答し、改善策を模索してほしい。</li> <li>・今後も単なる知識の習得だけでなく、一人ひとりが知識を活用できる能力を身につけ、タフで優しい吉高高校生になってほしいと思う。</li> <li>・1年生より高い意識づけが感じられ、現在の吉田高校の良い評価につながっていると思う。</li> <li>・「授業が楽しい」については、授業内容と共に「学ぶことの楽しさ」を体得させる授業改善に期待する。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習と部活動を含めた諸活動の両立」については、学年が進むにつれて難しさがあるようである。これは進学校ならではの課題であるとも考えられる。両立するのが良いと一方的に評価するのではなく、その時々生徒の状況に合わせて、生徒自身が力の配分を決定できるような工夫が大切であると思う。</li> <li>・発信力を高めるためには、日ごろの考えの整理と、それに対応する方法を言葉でまとめる習慣づけが必要であると思う。そのために、具体的な取り組みを進めてほしい。</li> <li>・「させるべき」という考え方は、自立性・主体性を妨げる可能性があることを念頭に置く必要もあると思う。</li> <li>・社会のソフトウェア化が進み、「分析→思考→創造→発信」のためのスキルの重要性が高まっている。この取り組みを、学校全体で継続的に推進してほしい。</li> <li>・吉高生は元来、主体性をしっかり持った生徒が多いと感じる。それは学園祭や生徒会活動などから見て取れる。例えば、校則の改訂に際し、服装髪型規程についてかなり真剣に議論が重ねられたと聞いている。しかし、それに対して学校側の対応にスピード感が乏しく、生徒たちに虚しさが広がっているのではないかと心配している。「頑張りでも頑張れない」という感情を抱かせないように、適切に指導してほしい。</li> <li>・吉田高校の学校運営を進めるうえで、生徒の意見を聞いていくこともたしかに大切ではあるが、地域の基幹校であることを肝に銘じて、曲げないポリシーを持ってほしい。恐れず今一歩踏み込んで、吉田高校らしさを追求してほしい。</li> <li>・主体性の基本である「自責思考」を持ちながら、具体的な取り組みを推進する必要があると思う。</li> <li>・責任転嫁ではなく、問題や失敗は自己責任であると素直に受け入れられるように生徒を導いてほしい。そのうえで、分析、思考、創造、表現などを実践できるように、様々な取り組みを継続して行ってほしい。</li> <li>・学校・教員・生徒のバランスが取れていれば、学校全体としての意識が高まると思う。誰か任せではなく、各々が今の課題や関心に、真っすぐに向き合える環境にある吉田高校であってほしい。</li> </ul>

自 己 評 価			
本年度の重点目標		年度末評価(2月20日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
3	人とのかかわりの中で生きていることを自覚させる	学校内外との関わりの中で、自己肯定感を養う指導を行う。	外部アンケート等
		社会に関心を持ち、未来の社会について考える態度を養う指導を行う。	外部アンケート等
		ユネスコスクールの加盟認可を目指し、SDGsの実現のために知識と実現のための行動力を身につける指導を行う。	外部アンケート等
4	「働き方改革」を踏まえて業務の見直しを図る	生徒、自分の家族と触れ合う機会を増やすために、業務内容全体の再構築や業務の分業と協業を推進する。	外部アンケート等
		教員のアンケート結果からは、「担当業務内容全体を再構築し、分業や協業を行っている」の達成率は、7月が44%、1月が61%であった。また、「ワークライフバランスを図るために、各自ができる具体的方策を取っている(ICTの活用、定時退校の実践等)」の達成率は、7月が40%、1月が65%であった。7月に比べると1月は改善が見られるが、働き方改革の推進は、依然として道半ばであると言える。	

※1) 吉田高校グラデュエーション・ポリシー(吉高GP) …… 本校3年間を通して8つの力(自己肯定力・傾聴力・分析力・思考力・発信力・想像力・創造力・行動力)を身につけること。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校関係者評価	
実施日 (令和5年2月23日)	
評価	意見・要望等
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な探究の時間の指導に関して、生徒が自身の興味・関心のあるものを探究すると、大きな成果を挙げることができる。今の若者は、健常者が障害者などのように関わるかについて考えるユニバーサル・マナーや、手話について高い興味・関心を示しているようである。また、メイクアップやファッション・コーディネートなどにも、若者は関心を持っているようである。今の若者のニーズを的確にとらえ、総合的な探究の時間のテーマ設定を行ってほしい。</li> <li>地域との連携として、富士吉田商工会議所青年部と連携に関する協定を結び、様々な活動を展開していることは、活動の足掛かりとしては良いと思う。今後、織物業や観光業との連携も考えられるのではないかと。例えば、富士五湖観光連盟と連携を図り、さらに広域の団体との連携を模索することも一案である。</li> <li>富士山学は、ただの調べ学習から一歩進んだように思う。単なる学習から主体的な発表活動へとつながっており、今後さらに深化してほしい。</li> <li>地域との関わりや結びつきは、大切なテーマであると思う。コロナ禍で大変であると思うが、今後も富士山学やボランティア活動を通して、広い視野を培う機会を多く持ってほしい。</li> <li>引き続き、生徒が地域社会を意識できる機会を多く作ってほしい。私たち地域事業者も、常に協力体制を整えておくので、気軽に相談してほしい。</li> <li>校外活動として、地域社会に様々な人がいることを知ることも肝要である。例えば、インクルーシブ教育の推進として、支援学校や高齢者の介護施設の方々と交流することも考えられる。楽しい活動のみのらず、自身と向きあうきっかけ作りや、人としての優しさを知ることができる機会も必要であると思う。</li> <li>自己肯定感を高めるためには、正しい評価と励ましが必要であると思う。生徒の努力や目標に向かって歩む姿を、周囲が認めてあげることが大切であると思う。そうすることで、より広い視野を持った生徒の育成を図ることができると思う。</li> <li>自己肯定感を上げるためには、教員の声掛けや励ましが決定的に重要であると思う。生徒はいつも先生方に声をかけてほしいと思っている。先生方には、ぜひ生徒の良いところを見つけ褒めてほしい。そして、生徒に声をかけ続け頑張っている先生方を、古屋校長に褒めてもらいたい。吉田高校に、教員・生徒に幸せの輪が広まることを願っている。</li> <li>学力の向上に合わせて、人間力の向上もとても大切であると感じる。地域社会と密接な関係を構築するにあたり、吉田高校の取り組みはとても良いと思う。SDGsに対する理解を進めると同時に、地域への思い入れや愛情も育ててほしい。</li> <li>SDGsについて取り組んでいかないと、企業として成り立たない時代であるので、学生の時から意識させることはよいことであると思う。</li> <li>今後も幅広く学ぶことができる指導計画を立案してほしい。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の働き方改革を進めるためには、教職員が余裕を持てることが肝要である。私が勤務している会社では、以前は時間外勤務時間が非常に多かった。対策として、書類の削減に努め、オンラインの活用を図った。その結果、書類を以前に比べて、10分の1または20分の1程度に減らすことができた。学校でも、このような取り組みが有効ではないか。また、私の会社では、コストはかかるが各種のソフトを活用して、残業時間を半分以下にすることに成功している。働き方改革の改善策として、ソフトの活用が挙げられているので、ぜひソフトの利活用を推進してほしい。</li> <li>7月は約4割、1月は約6割の達成率である。今後もさらに達成率が上がるように努めてほしい。</li> <li>ワークライフバランスについては、コロナ禍での取り組みがヒントになった例もあると思う。今後も継続して、業務改善を進めてほしい。</li> <li>働き方改革については、さらなる進展が必要であると思う。外部講師や外部コーチを積極的に受け入れて、教員の負担軽減を進めてほしい。また、そのことがきめ細かい生徒指導につながるような仕組みづくりを工夫してほしい。</li> </ul>

学校目標・経営方針	
本年度の重点目標	1 生徒の知識活用能力を高める
	2 生徒の主体性を高める
	3 人とかかわりの中で生きていることを自覚させる
	4 「働き方改革」を踏まえて業務の見直しを図る

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価				年度末評価(〇月〇日現在)		
本年度の重点目標				自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			
1	生徒の知識活用能力を高める	※1 吉田高校グラデュエーション・ポリシーを意識し、生徒の主体性をさらに育成する授業を実施する。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等			
		評価を適切に行い、自己肯定感の高揚を図る。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等			
		授業と連動した課題を設定し、知識の活用・定着を図る。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等			
2	生徒の主体性を高める	常に「分析し、思考し、創造し、発信する」機会の提供を意識した指導を行う。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等			
		自己の課題を発見し、他者との関係の中で「傾聴し、想像を共有し、行動する」ことができる生徒像を意識した指導を行う。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等			
		日常生活、行事を通じて、自分の言動に責任を持ち、自ら行動する態度を養う指導を行う。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等			
3	人とかかわりの中で生きていることを自覚させる	学校内外との関わりの中で、自己肯定感を養う指導を行う。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等			
		社会に関心を持ち、未来の社会について考える態度を養う指導を行う。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等			
		ユネスコスクールの加盟認可を目指し、SDGsの実現のために知識と実現のための行動力を身に付ける指導を行う。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等			
4	「働き方改革」を踏まえて業務の見直しを図る	生徒、自分の家族と触れ合う機会を増やすために、業務内容全体の再構築や業務の分業と協業を推進する。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等			

学校関係者評価	
実施日 (令和〇年〇月〇日)	
評価	意見・要望等

※1) 吉田高校グラデュエーション・ポリシー(吉高GP) …… 本校3年間を通して8つの力(自己肯定力・傾聴力・分析力・思考力・発信力・想像力・創造力・行動力)を身につけること。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

## 令和5年度学校評価・教職員評価の年間スケジュール(案)

R5.4.5 教頭

日程(暫定)	学校評価の活動	教職員評価の活動	備考
4/1(土)	職員会議 令和5年度本校教育目標等の提示		
4/5(水)	職員会議 年間スケジュールの提示 学校評価アンケート質問項目の提示 及び検討	職員会議 年間スケジュールの提示 及び「自己観察書」の記入について説明	5/8 締切
5/11(木) ～ 5/26(金)		「自己観察書」に基づき管理職と面談 記載事項に変更が必要な場合、「自己観察書」を再提出	
5/17(水)	第1回学校評価委員会 学校評価アンケート質問項目の確認		
5/24(水)	職員会議	第1回相互授業参観について説明	
6/5(月) ～ 6/23(金)		第1回相互授業参観、LHR観察、部活動観察、それらの指導助言を「自己観察書」に随時記入	
6/14(水)	第2回学校評価委員会 学校評価アンケート質問項目の決定	教職員の自己評価 必要に応じて管理職との面談、中間評価を行う。(自己目標の変更があれば、新たに提出)	
7月上旬	学校評価アンケートの実施 (第1回生徒・教職員対象)		
9/8(金)	第3回学校評価委員会 第1回学校評価のまとめと第2回学校評価アンケートの検討		
9/21(木)	職員会議	第2回相互授業参観について説明 「評価書の提出」(能力・意欲の自己評価)	10/6 締切
10/2(月) ～ 10/27(金)		第2回相互授業参観、LHR観察、部活動観察、それらの指導助言を「自己観察書」に随時記入	
11月上旬	学校評価アンケートの実施 (第1回保護者対象)		
11月下旬	学校評価アンケートの実施 (第2回3学年生徒対象)		
11/8(水)	職員会議	「自己観察書」「評価書(業績自己評価)」の提出(12/22まで)についての説明	12/22 締切
12/6(水) ～ 1/26(金)		提出された「自己観察書」や「評価書」をもとに 必要に応じて管理職との面談	
1月中旬	学校評価アンケートの実施 (第2回1・2学年生徒、教職員対象)		
2/6(火)	第4回学校評価委員会 第2回学校評価のまとめ		
2/1(木) ～ 3/12(火)		管理職と評価後の面接を行う	
3/13(水)	第5回学校評価委員会 年度末評価の検討・次年度計画策定		

令和5年度（2023）年間行事予定

山梨県立吉田高等学校

日	曜	4月	休	日	曜	5月	休
1	土	年度始め休業（～4/6）	×	1	月	①②③の授業 新入生歓迎レク大会（雨天時は月曜日の授業）	○
2	日	理数科登校学習会	×	2	火	（新入生歓迎レク予備日）	○
3	月	代休（4/1） 理数科登校学習会	×	3	水	理数科登校学習会	
4	火	新任職員オリエンテーション 理数科登校学習会	×	4	木	【みどりの日】 理数科登校学習会	
5	水		×	5	金	【こどもの日】 理数科登校学習会	
6	木		×	6	土		
7	金	新任式・始業式 LHR・大掃除・入学式式場設営 生徒会自治集会・部長会議	△	7	日		
8	土	入学式 第1学年PTA保護者会	△	8	月	（総体前 40分授業×7h）	○
9	日			9	火	（総体前 40分授業×7h） 総体テント設営 ※水曜日の授業 尿検査二次	○
10	月	AM 対面式・納め式・LHR・高校生活ガイダンス(1) PM 個人写真撮影(1)・LHR 理数科集会	○	10	水	高校総体 学年別課題授業(AM)	△
11	火	スタディサポート(1・2) 進路希望調査(2・3) 実力テスト(3) 第1回生徒評議会	○	11	木	高校総体 学年別課題授業(AM)	△
12	水	AM 身体計測 防災避難訓練① PM 授業開始(1・2) 実力テスト(3) 校歌応援歌練習ガイダンス	○	12	金	高校総体 特別時間割(AM)	△
13	木	平常授業開始 校歌応援歌練習1日目 歯科検診(3) 理数科8校時開始(2・3)	○	13	土	駿台模試(3)	
14	金	<心電図検診・結核検診(1)> 校歌応援歌練習2日目 第1回PTA各学年部会・第1回PTA理事会	○	14	日		
15	土	OS①(2・3)		15	月		○
16	日			16	火		○
17	月	小論文委員会 校歌応援歌練習3日目 部活動見学	○	17	水	進路学習会(3) 67h マナーアップ運動① 第2回PTA理事会	○
18	火	第1回委員会集会	○	18	木	耳鼻科検診(1)	○
19	水	<尿検査一次> 理数科8校時開始(1) 第2回生徒評議会	○	19	金	40分授業×7h 総体納め式・関東大会壮行会 8h	○
20	木	歯科検診(1)	○	20	土	全統模試(1・2・3) 同窓会総会	
21	金	①②③④⑤の授業 芸術鑑賞会(1・2) 67h 進路希望調査(1)	○	21	日		
22	土	全統共通テスト模試(3)		22	月	前期第1回試験時間割発表	○
23	日			23	火		○
24	月	部登録集会	○	24	水	内科検診(2)	○
25	火		○	25	木		○
26	水	40分授業×5h 前期生徒総会・総体壮行会 67h	○	26	金		○
27	木	40分授業×7h 歯科検診(2) 交通安全教室 8h	○	27	土	OS②（試験前）	
28	金	40分授業×7h 大掃除・PTA準備 8h	○	28	日		
29	土	【昭和の日】 PTA各学年部会・PTA総会 保護者対象進路説明会		29	月	前期第1回試験	△
30	日			30	火	前期第1回試験	△
				31	水	前期第1回試験	△

日	曜	6月	休	日	曜	7月	休
1	木	前期第1回試験 特活クレジット・小論文説明会(学年集会)(3)	△	1	土	蒼風祭	○
2	金	追試験	○	2	日		
3	土	進研マーク模試・就公模試(3) 駿台模試(1・2)		3	月	7/1の代休	
4	日	学校林整備事業 第1回英検1次(個人申込・校外会場受検)		4	火	※月曜日の授業	○
5	月	成績処理日(生徒は家庭学習日)	×	5	水	薬物乱用防止教室1h ②③④⑤⑥⑦の授業 野球応援練習	○
6	火	相互授業参観(～6/23)	○	6	木	理数科学習検討会②(2)	○
7	水	内科検診(3)	○	7	金	進路学習会(1) 67h 漢字検定①	○
8	木	保護者対象進路ガイダンス(3)	○	8	土	進研模試(1・2) 進研記述模試(3)(OS③)	
9	金		○	9	日	第1回英検二次(個人申込・校外会場受検)	
10	土			10	月	理数科学習検討会②(1)	○
11	日			11	火	④⑤⑥⑦授業 PM 三者懇談 第1回フードドライブ(～7/21) 理数科学習会(PM)	△
12	月	教育実習(～6/30)	○	12	水	理数科企業見学①(1) 567h	○
13	火		○	13	木	①②③⑦授業 PM 三者懇談 理数科学習会(PM)	△
14	水	内科検診(1)	○	14	金	①②③④授業 PM 三者懇談 理数科学習会(PM)	△
15	木		○	15	土	理数科課外(2) 大学別模試(3)	
16	金	40分授業×7h 蒼風祭ブロック集会8h	○	16	日	理数科課外(2) 大学別模試(3)	
17	土			17	月	【海の日】 大学別模試(3)	
18	日			18	火	①②③⑦授業 PM 三者懇談 理数科学習会(PM)	△
19	月		○	19	水	①⑤⑥⑦授業 PM 三者懇談 ピブリオバトル(放課後) 理数科学習会(PM)	△
20	火	理数科学習検討会②(3)	○	20	木	④⑤⑥⑦授業 PM 三者懇談 理数科学習会(PM)	△
21	水	マナーアップ運動② 第3回PTA理事会	○	21	金	AM 休業前集会・合同LHR・LHR・大掃除 フードドライブ食品搬入	△
22	木		○	22	土	理数科夏期課外(2)	
23	金	40分授業×7h 全国大会・野球 壮行会 8h	○	23	日	理数科夏期課外(2) 代ゼミ共通テスト講座(3)	
24	土			24	月	夏季休業(～8/18) 理数科理数探究(2)～8/4まで 夏期課外(3) 教養講座(3) 理数科夏期課外(1・3)	×
25	日			25	火	夏期課外(3) 理数科夏期課外(1・3)	×
26	月		○	26	水	夏期課外(3) 理数科夏期課外(1・3)	×
27	火		○	27	木	夏期課外(3) 理数科夏期課外(1・3)	×
28	水		○	28	金	夏期課外(3) 理数科夏期課外(1・3)	×
29	木	蒼風祭準備日	○	29	土	全統共通テスト模試(3) 大学別模試(3) 理数科夏期課外(2)	×
30	金	蒼風祭	○	30	日	理数科夏期課外(2)	×
				31	月	夏期課外(3) 理数科夏期課外(1・3)	×

日	曜	8月			休	日	曜	9月			休
1	火	夏期課外(3)	理数科夏期課外(1・3)		×	1	金				○
2	水	夏期課外(3)	理数科夏期課外(1・3)		×	2	土	第1回進駿共通テスト模試(3)			
3	木	夏期課外(3)	理数科夏期課外(3)		×	3	日				
4	金	夏期課外(3)	理数科夏期課外(3)		×	4	月	共通テストガイダンス(3)7h			○
5	土		理数科宿泊学習会(～8/9)		×	5	火	①②③④⑤の授業 生徒会役員選挙・立会演説会・投開票 6h 富士登山強歩大会ガイダンス 7h			○
6	日				×	6	水	富士登山強歩大会(雨天順延時は 木曜日の授業)			○
7	月	夏期課外(3)			×	7	木	富士登山強歩大会予備日(雨天中止の場合は 木曜日の授業) 前期第2回試験時間割発表			○
8	火	夏期課外(3)	夏期学習会(1・2)		×	8	金				○
9	水	夏期課外(3)	夏期学習会(1・2)	↓	×	9	土	OS⑤(試験前)メカパイロット講座			
10	木	夏期課外(3)	大学別模試(3)		×	10	日				
11	金	【山の日】夏期課外(3)	大学別模試(3)		×	11	月				○
12	土				×	12	火				○
13	日				×	13	水	消費者教育(1)67h			○
14	月	閉庁			×	14	木	前期第2回試験			△
15	火	閉庁			×	15	金	前期第2回試験			△
16	水	夏期課外(3)	夏期学習会(1・2)	理数科夏期課外(1・2・3)	×	16	土				
17	木	夏期課外(3)	夏期学習会(1・2)	理数科夏期課外(1・2・3)	×	17	日				
18	金	夏期課外(3)	夏期学習会(1・2)	理数科夏期課外(1・2・3)	×	18	月	【敬老の日】			
19	土	全統模試(1・2・3 希望者 追試なし)(OS④)			×	19	火	前期第2回試験			△
20	日	大学別模試(3)			×	20	水	前期第2回試験 小論文模試(3) マナーアップ運動③			△
21	月	理数科夏期課外(1・2・3)			×	21	木	成績処理日(生徒は家庭学習日)			×
22	火	AM 納め式 合同LHR・LHR等 就職推薦委員会・特活クレジット認定委員会			△	22	金	追試験			○
23	水	実力テスト(3) スタディサポート(1・2) 年金労働法講座(3)67h 第4回PTA理事会			○	23	土	【秋分の日】 共通テストゼミ(3 希望)			
24	木	実力テスト(3)			○	24	日	駿台模試(3)			
25	金	生徒会役員選挙告示			○	25	月				○
26	土	オープンキャンパス				26	火				○
27	日	大学別模試(3)				27	水				○
28	月				○	28	木				○
29	火				○	29	金	AM ①②③④授業 進路希望調査(1・2・3)～10/5まで PM 前期末集会・納め式・生徒会役員認証式・LHR ワックスがけ			○
30	水				○	30	土	共通テストゼミ(3 希望)			
31	木				○						

日	曜	10月		日	曜	11月	
1	日			1	水	私大検討週間 (～12/1)	○
2	月	履修科目予備登録(1・2) 相互授業参観(～10/27)	○	2	木		○
3	火	体育祭(雨天順延時は 木曜日の授業)	○	3	金	[文化の日] 共通テストゼミ(3 希望) 大学別模試(3)	
4	水	面接ガイダンス(3)67h 楽問楽学(1)567h	○	4	土	大学別模試(3)	
5	木	体育祭予備日(雨天中止時は 木曜日の授業)	○	5	日	大学別模試(3)	
6	金		○	6	月	後期第1回試験時間割発表(3)	○
7	土	第2回進駿記述模試(3) 駿台模試(1・2)		7	火		○
8	日	第2回英検1次(個人申込・校外会場受検) 大学別模試(3)		8	水		○
9	月	[スポーツの日] 大学別模試(3)		9	木	芸文祭グランドステージ	○
10	火		○	10	金	漢字検定②	○
11	水	富士山学 校外学習(2)567h 理数科理数探究発表会①5678h 第5回PTA理事会	○	11	土		
12	木		○	12	日	第2回英検2次(個人申込・校外会場受検)	
13	金	後期委員会集会	○	13	月	修学旅行(2) 後期第1回試験(3)	○
14	土	全統記述(3)		14	火	修学旅行(2) 後期第1回試験(3)	○
15	日			15	水	修学旅行(2) 後期第1回試験(3) 校外学習(1)567h マナーアップ運動④ 理数科企業見学②(1)	○
16	月		○	16	木	修学旅行(2) 後期第1回試験(3) 11/15 第6回PTA理事会	○
17	火		○	17	金	追試験	○
18	水	理数科理数探究発表会② 5678h	○	18	土	大学別模試(3)	
19	木		○	19	日	代ゼミ共通テスト対策講座(3) 大学別模試(3)	
20	金	[創立記念日] 大学別模試(3)	×	20	月	[県民の日]	×
21	土	共通テストゼミ(3 希望) 大学別模試(3)		21	火	後期第1回試験時間割発表(1・2)	○
22	日	大学別模試(3)		22	水	進路学習会(2)67h	○
23	月		○	23	木	[勤労感謝の日] 全統プレ共通テスト(3)	
24	火	1学年授業公開・保護者進路説明会(1)	○	24	金		○
25	水	出願ガイダンス(3)6h文系・7h理系	○	25	土	OS⑦(1・2)(試験前)	
26	木	2学年授業公開・保護者進路説明会(2)	○	26	日		
27	金	40分授業×5h ③④⑤⑥⑦の授業 後期生徒総会 67h	○	27	月		○
28	土	進研模試(1・2)(OS⑥) 第3回進駿共通テスト模試(3)		28	火	後期第1回試験(1・2)	○
29	日	進研模試(2)		29	水	後期第1回試験(1・2)	○
30	月		○	30	木	後期第1回試験(1・2)	○
31	火		○				

日	曜	12月		日	曜	1月	
1	金	後期第1回試験(1・2)	○	1	月	[元旦] 学校閉鎖	×
2	土	共通テストシミュレーション①(3)		2	火	学校閉鎖	×
3	日	共通テストシミュレーション①(3)		3	水	学校閉鎖	×
4	月	追試験 履修科目本登録(1・2)	○	4	木	共通テストゼミ(3) 冬期学習会(1・2) 理数科冬期課外(1・2)	×
5	火	私大検討会(3)	○	5	金	実力テスト(1・2)	○
6	水	私大検討会(3) 18歳成人講座(2)67h	○	6	土	共通テストシミュレーション②(3)	
7	木		○	7	日		
8	金	県高校総体冬季大会スケート競技	○	8	月	[成人の日]	
9	土	OS⑧(1・2) 県高校総体冬季大会スケート競技		9	火		○
10	日			10	水	共通テスト激励会(3)7h	○
11	月	第2回フードドライブ(~12/22)	○	11	木		○
12	火	クリスマスツリー点灯式	○	12	金		○
13	水		○	13	土	大学入学共通テスト 進研総合学力模試(1・2)(OS⑨)	
14	木	40分授業×7h 福祉講話(1・2)8h	○	14	日	大学入学共通テスト 進研総合学力模試(2)	
15	金		○	15	月	共通テスト自己採点(3)1~4h	○
16	土	共通テストゼミ(3 希望)		16	火	理数科推進委員会②	○
17	日			17	水	マナーアップ運動⑤ 第7回PTA理事会	○
18	月		○	18	木		○
19	火		○	19	金	最後の小論文(3)567h	○
20	水		○	20	土		
21	木		○	21	日	第3回英検一次(個人申込・校外会場受検)	
22	金	AM 大掃除・休業前集会・納め式・合同LHR・LHR 第2回フードドライブ食品搬入	△	22	月		○
23	土	共通テストゼミ(3)		23	火	国公立大 検討会(3)	○
24	日	共通テストゼミ(3)		24	水	国公立大 検討会(3)	○
25	月	冬季休業(~1/4) 富士高校理数科課題研究発表会参加 共通テストゼミ(3) 理数科冬期課外(1・2)	×	25	木		○
26	火	共通テストゼミ(3) 理数科冬期課外(1・2)	×	26	金		○
27	水	共通テストゼミ(3) 理数科冬期課外(1・2)	×	27	土	進研共通テスト模試(2)	
28	木	仕事納め 共通テストゼミ(3) 理数科冬期課外(1・2)	×	28	日		
29	金	冬季休業(~1/4まで) 学校閉鎖	×	29	月		○
30	土	学校閉鎖	×	30	火		○
31	日	学校閉鎖	×	31	水	AM ②③④⑤の授業 前期募集検査会場設営4h	△

日	曜	2月		日	曜	3月	
1	木	前期募集検査	×	1	金	卒業証書授与式 第2回PTA3学年部会	△
2	金	前期募集検査	×	2	土	理数科春期課外(1・2)	
3	土			3	日	理数科春期課外(1・2)	
4	日			4	月	AM 答案返却 後期募集検査会場設営4h	△
5	月		○	5	火	後期募集検査	×
6	火		○	6	水	後期募集検査採点	×
7	水	第2回3学年委員会・第8回PTA理事会	○	7	木		○
8	木		○	8	金		○
9	金	前期募集内定 漢字検定③	○	9	土	後期募集追検査(総合教育センター) 理数科春期課外(1・2)	
10	土			10	日	代ゼミ共通テスト対策講座(2)	
11	日	【建国記念の日】 駿台模試(1・2)		11	月	球技大会	○
12	月	(振替休日)		12	火	球技大会 入学許可予定者発表	○
13	火	※月曜日の授業	○	13	水		○
14	水	後期第2回試験時間割発表(1・2)	○	14	木		○
15	木		○	15	金	再募集検査	○
16	金		○	16	土	OS⑩(1・2)(卒業生の話を書く) 理数科春期課外(1・2)	
17	土	OS⑩(1・2)(試験前)		17	日	理数科春期課外(1・2)	
18	日			18	月		○
19	月		○	19	火	再募集入学許可予定者発表	○
20	火		○	20	水	【春分の日】 理数科春期課外(1・2)	
21	水	後期2回試験(1・2)	△	21	木	新入生オリエンテーション(生徒は家庭学習日)	×
22	木	後期2回試験(1・2)	△	22	金	AM ※水曜日の授業①②③④ PM 納め式・大掃除	○
23	金	【天皇誕生日】		23	土		
24	土			24	日		
25	日	第3回英検二次(個人申込・校外会場受検)		25	月	AM 終業式・離任式・LHR PM 追認試験	△
26	月	後期2回試験(1・2)	△	26	火	学年末休業(～3/31) 理数科宿泊学習会(～3/29)	×
27	火	後期2回試験(1・2)	△	27	水		×
28	水	追試験 式場設営	○	28	木		×
29	木	卒業式予行・同窓会入会式・納め式・表彰式	△	29	金		×
				30	土		×
				31	日		×



学校番号	23
学校名	吉田高等学校
学科名	普通科

学年	1	テーマ	地域の一員として、想像する(富士山学 I)	探究課題	個人の設定した課題による地域探究
----	---	-----	-----------------------	------	------------------

回数	月日	曜	時	時	単元	学習内容	主なねらい	プロセス				形態	会場	担当	備考	評価計画			評価方法
								I	II	III	IV					知	恩	主	
1	4月12日	水	6	1	富士山学 I	富士山学ガイダンス	探究活動の目的・手法などを理解する	○				学年	体育館	担任					
2	4月19日	水	6	1	富士山学 I	オリエンテーション	探究活動でどのような視点が必要なのか、理解する。	○				学年	体育館	担任					
3	5月17日	水	56	2	富士山学 I	地域講演会	地域の課題を知り、探究したいことを見つける		○			学年	体育館	担任		①		①	ワークシート
4	6月7日	水	67	2	富士山学 I	地域講演会	地域の課題を知り、探究したいことを見つける		○			学年	体育館	担任		①		①	ワークシート
5	6月21日	水	56	2	富士山学 I	プロジェクト223	地域で活躍する方々の話を聞いて、地域の未来を考える		○			HR	視聴覚室など	正副担任					
6	6月28日	水	6	1	富士山学 I	学園祭探究	集団で問題解決する際の方法を知り実践する			○		HR	HR	担任					
7	7月5日	水	67	2	富士山学 I	地域講演会	地域の課題を知り、探究したいことを見つける		○			学年	体育館	担任		①		①	ワークシート
8	7月12日	水	56	2	富士山学 I	地域講演会	地域の課題を知り、探究したいことを見つける		○			学年	体育館	担任		①		①	ワークシート
9	8月23日	水	67	2	富士山学 I	地域講演会	地域の課題を知り、探究したいことを見つける		○			学年	体育館	担任		①		①	ワークシート
10	8月30日	水	67	2	富士山学 I	地域講演会	地域の課題を知り、探究したいことを見つける		○			学年	体育館	担任		①		①	ワークシート
11	9月13日	水	6	1	富士山学 I	消費者教育	悪徳業者に騙されない、正しい知識をもった消費者になる			○		学年	体育館	担任					
12	9月27日	水	6	1	富士山学 I	課題の設定	これまでの地域講演会の内容から、探究活動の対象を決める	○				HR	HR	担任		①		①	ワークシート
13	10月4日	水	##	3	富士山学 I	案問案学	課題を解決する方法を、多角的・多面的に考察し新たな企画書の作成をする。		○			学年	視聴覚教室など	正副担任					
14	10月11日	水	67	2	富士山学 I	RESAS探究	課題を解決する方法を、多角的・多面的に考察させる。			○		HR	HR	担任					
15	10月25日	水	6	1	富士山学 I	個人探究1	設定した課題に対する情報の整理、分析を行う			○		HR	HR	担任	パワポ資料作成スタート				
16	11月1日	水	6	1	富士山学 I	個人探究2	設定した課題に対する情報の整理、分析を行う			○		HR	HR	担任					
17	11月8日	水	6	1	富士山学 I	個人探究3	探究活動に続いて、校外学習で学びたいことを明らかにしておく			○		HR	HR	担任					
18	11月15日	水	##	3	富士山学 I	校外学習	体験を通して学ぶ		○			学年	校外	学年	フィールドワーク	③		②	ワークシート
19	12月6日	水	6	1	富士山学 I	個人探究4	校外学習の振り返りを行う			○		HR	HR	担任					
20	12月13日	水	6	1	富士山学 I	個人探究5	発表に向けて準備			○		HR	HR	担任	発表内容を見てアドバイス				
21	12月20日	水	6	1	富士山学 I	個人探究6	発表に向けて準備			○		HR	HR	担任	発表内容を見てアドバイス				
22	1月17日	水	6	1	富士山学 I	個人探究7	発表に向けて準備			○		HR	HR	担任	発表内容を見てアドバイス				
23	1月24日	水	67	2	富士山学 I	クラス発表	個人探究の成果を発表する				○	HR	HR	担任		③	④	③	評価シート パワポ
24	2月7日	水	67	2	富士山学 I	2学年発表見学	2年次の発表について、イメージを持つ			○		学年	体育館	担任					
25	3月13日	水	6	1	富士山学 I	振り返り・課題設定	今年度を振り返り、次年度に向けての課題設定をする			○		HR	HR	担任					
26																			
27																			
28																			
29																			
30																			
31																			
32																			
33																			
34																			
35																			

学校番号	26
学校名	吉田高等学校
学科名	普通科

学年	2	テーマ	地域の一員として、創造する(富士山学Ⅱ)				探究課題	グループによる、地域の課題探究									
回数	月日	曜	時	時	単元	学習内容	主なねらい	プロセス				形態	会場	担当	備考	評価計画	
								①	②	③	④					知	思
1	4月12日	水	6	1	富士山学Ⅱ	分野長決め・まとめ	2年次の富士山学について1年次の体験をもとに再構築する	○				学年	体育館	学年	Classiアンケート		
2	4月19日	水	6	1	富士山学Ⅱ	情報収集シート	グループで設定した課題について検討し、探究活動をすすめる	○				HR	HR	正副担任			①
3	5月17日	水	6	1	富士山学Ⅱ	情報収集シート	グループで設定した課題について検討し、探究活動をすすめる	○				HR	HR	正副担任			①
4	5月24日	水	6	1	富士山学Ⅱ	プレゼンボード	前時の講座をもとに課題の問題点を把握する	○	○			HR	HR	正副担任	課題設定シート提出		①
5	6月7日	水	6	1	富士山学Ⅱ	プレゼンボード直し	問題点をグループで共有する	○	○	○		HR	HR	正副担任			①
6	6月14日	水	6	1	富士山学Ⅱ	プレゼンボード直し	問題点をグループで共有する	○	○	○		HR	HR	正副担任			①
7	6月21日	水	6	2	富士山学Ⅱ	プロジェクト223	地域で活躍する方々の話を聞いて、地域の未来を考える		○			HR	視聴覚室など	正副担任			
8	6月28日	水	6	1	富士山学Ⅱ	学園祭探究	集団で問題解決の際の方法を知り実践する			○		HR	HR	正副担任			
9	7月5日	水	6	1	富士山学Ⅱ	振り返り	プロジェクト223でのアドバイスから、設定課題を分析する		○	○		学年	HR	正副担任			
10	7月12日	水	6	1	富士山学Ⅱ	探究実践に向けて	中間発表に向けて追加の調査項目があるか検討し夏休み中の計画を立てる	○		○		HR	HR	正副担任	企画書Classiアンケート		
11	7月19日	水	6	1	富士山学Ⅱ	探究実践に向けて	中間発表に向けて追加の調査項目があるか検討し夏休み中の計画を立てる	○		○		HR	HR	正副担任			②
12	8月23日	水	6	1	富士山学Ⅱ	探究実践のまとめ	校外活動と夏休みのアンケート・追加調査の取りまとめをする				○	HR	HR	正副担任			②
13	8月30日	水	6	2	富士山学Ⅱ	中間発表準備	これまでの課題探究についてまとめ、プレゼン資料を作成する		○	○		HR	HR	正副担任			②
14	9月13日	水	6	1	富士山学Ⅱ	校外学習準備	見学内容やインタビューの内容について検討する		○			HR	HR	正副担任			
15	9月27日	水	6	1	富士山学Ⅱ	校外学習準備	見学内容やインタビューの内容について検討する		○			HR	HR	正副担任			
16	10月4日	水	6	1	富士山学Ⅱ	中間発表準備	これまでの課題探究についてまとめ、プレゼン資料を作成する		○	○		HR	HR	正副担任			③
17	10月11日	水	6	3	富士山学Ⅱ	校外学習	実社会のヒト・モノ・コトに触れ、これまでの学びを検証する		○			HR	校外	学年			③
18	10月18日	月	6	1	富士山学Ⅱ	校外学習まとめ	校外学習における発見をまとめる			○	○	学年	HR	制服担任			③
19	10月25日	水	6	2	富士山学Ⅱ	中間発表	中間発表でこれまでの学びを振り返る				○	HR	HR	学年	中間発表報告書Classiアンケート		③
20	11月1日	水	6	1	富士山学Ⅱ	修学旅行探究	日ごろ住み慣れた地域だけでなく他地域についても理解を深める		○			学年	HR	学年			
21	11月8日	水	6	1	富士山学Ⅱ	修学旅行探究	日ごろ住み慣れた地域だけでなく他地域についても理解を深める			○		HR	HR	正副担任			
22	11月22日	水	6	1	富士山学Ⅱ	進路学習会	自分の進路について考える		○	○		HR	HR	正副担任			
23	12月6日	水	6	1	富士山学Ⅱ	18歳成人講座	成年年齢引き下げに備え、社会人として必要な知識を養う。				○	学年	校外または校内	学年			
24	12月13日	水	6	1	富士山学Ⅱ	成果物作成	最終資料として、これまでの成果をプレゼンテーションソフトにまとめる			○		HR	HR	正副担任			
25	12月20日	水	6	1	富士山学Ⅱ	成果物作成	最終資料として、これまでの成果をプレゼンテーションソフトにまとめる			○		HR	HR	正副担任			③
26	1月10日	水	6	1	富士山学Ⅱ	成果物作成	最終資料として、これまでの成果をプレゼンテーションソフトにまとめる			○		学年	HR	正副担任			③
27	1月17日	水	6	2	富士山学Ⅱ	分野別発表会	実地検証に基づいた成果を発表する				○	HR	視聴覚室など	正副担任	PPT・レポート×切		
28	1月24日	水	6	1	富士山学Ⅱ	発表会準備・お礼状	全体発表会に向けて、プレゼンの準備を行うとともに、お世話になった方へのお礼状を作成する				○	学年	HR	学年			①
29	2月7日	水	6	2	富士山学Ⅱ	全体発表会	全体で優秀な内容の発表を共有する				○	HR	体育館	正副担任			
30	2月14日	水	6	1	富士山学Ⅱ	振り返りアンケート	1地年間を振り返り全体の活動をまとめる				○	HR	HR	正副担任			③
31	3月13日	水	6	1	富士山学Ⅱ	振り返りアンケート	今年度の活動をもとに来年度の探究の内容を検討する				○	HR	HR	正副担任	Classiアンケート		
30																	
31																	
32																	
33																	
34																	
35																	

学校番号	23
学校名	吉田高等学校
学科名	普通科

< 教育課程上の名称 : 総合的な探究の時間 >

回数	月日	曜	時 限	時 数	単元	学習内容	主なねらい	プロセス				形態	会場	担当	備考	評価計画		
								I	II	III	IV					知	思	主
1	4月19日	水	6	1	富士山学Ⅲ	論文オリエンテーション	論文の書き方を学び、今後一年間を想像する	○				HR	HR	担任	Classiアンケート			
2	5月17日	水	6	2	富士山学Ⅲ	進路講演会	今後の生き方やあり方を見据えながら、大学などの進学先での学びについて考える		○	○		HR	HR	担任				①
3	5月24日	水	6	1	富士山学Ⅲ	志望理由書を書く	自分を振り返り今後の人生の指針を考えさせる。		○			HR	HR	担任				
4	6月7日	水	6	1	富士山学Ⅲ	1年生に引き継ぐ①	富士山学Ⅱでの取り組みを捉えなおす	○				HR	HR	担任				
5	6月14日	水	6	1	富士山学Ⅲ	1年生に引き継ぐ②	富士山学Ⅱでの取り組みを捉えなおす	○				HR	HR	担任				②
6	6月21日	水	6	1	富士山学Ⅲ	1年生に引き継ぐ③	富士山学Ⅱでの取り組みを捉えなおす		○			HR	HR	担任				
7	6月28日	水	6	1	富士山学Ⅲ	1年生に引き継ぐ④	富士山学Ⅱでの取り組みを捉えなおす		○			HR	HR	担任				
8	7月5日	水	6	1	富士山学Ⅲ	学園祭探究	集団で問題解決の際の方法を知り実践する			○		HR	HR	担任	Classiアンケート	①	①	
9	7月12日	水	6	1	富士山学Ⅲ	1年生の地域探究への指導助言書を作る	これまでの学びで得たものを、後輩に伝える				○	HR	HR	担任				②
10	7月19日	水	6	1	富士山学Ⅲ	小論文オリエンテーション	社会における諸問題について、自己の考えを表現する方法を学ぶ。		○			HR	HR	担任	小論文			
11	8月23日	水	6	2	富士山学Ⅲ	年金労働法講座	成人として、年金および労働の基礎的知識を修得する。		○			HR	HR	担任		②	③	
12	8月30日	水	6	2	富士山学Ⅲ	論文作成(整理分析)	世界で行われている取り組みについて、自己の考えを表現する。			○		HR	HR	担任				
13	9月13日	水	6	1	富士山学Ⅲ	論文作成(整理分析)	世界で行われている取り組みを、自己の取り組みに照らして最適解をさぐる。			○		HR	HR	担任				
14	9月27日	水	6	2	富士山学Ⅲ	論文作成(整理分析)	世界で行われている取り組みを、自己の取り組みに照らして最適解をさぐる。			○		HR	HR	担任				
15	10月4日	水	6	1	富士山学Ⅲ	論文作成(整理分析)	世界で行われている取り組みを、自己の取り組みに照らして最適解をさぐる。			○		HR	HR	担任				
16	10月11日	水	6	1	富士山学Ⅲ	論文作成(整理分析)	世界で行われている取り組みを、自己の取り組みに照らして最適解をさぐる。			○		HR	HR	担任				
17	10月18日	水	6	1	富士山学Ⅲ	中間報告①	論文の進捗状況について報告する。				○	HR	HR	担任	Classiアンケート		②	①
18	10月25日	水	6	2	富士山学Ⅲ	論文作成(まとめ・表現)	これまでの学びで得たものを、論文としてまとめる				○	HR	HR	担任				
19	11月1日	水	6	2	富士山学Ⅲ	論文作成(まとめ・表現)	これまでの学びで得たものを、論文としてまとめる				○	HR	HR	担任				
20	11月8日	水	6	1	富士山学Ⅲ	論文作成(まとめ・表現)	これまでの学びで得たものを、論文としてまとめる				○	HR	HR	担任				③
21	11月22日	水	6	1	富士山学Ⅲ	中間報告②	論文の進捗状況について報告する。				○	HR	HR	担任				③
22	11月29日	水	6	1	富士山学Ⅲ	論文作成(まとめ・表現)	これまでの学びで得たものを、論文としてまとめる。				○	HR	HR	担任		①		
23	12月6日	水	6	2	富士山学Ⅲ	論文作成(まとめ・表現)	これまでの学びで得たものを、論文としてまとめる。				○	HR	HR	担任				
24	12月13日	水	6	1	富士山学Ⅲ	論文作成(まとめ・表現)	これまでの学びで得たものを、論文としてまとめる。				○	HR	HR	担任		②	②	
25	12月20日	水	6	1	富士山学Ⅲ	論文作成(まとめ・表現)	これまでの学びで得たものを、論文としてまとめる。				○	HR	HR	担任	論文1次提出			
26	1月10日	水	6	1	富士山学Ⅲ	論文作成(まとめ・表現)	これまでの学びで得たものを、論文としてまとめる。				○	HR	HR	担任				
27	1月17日	水	6	1	富士山学Ⅲ	論文作成(まとめ・表現)	これまでの学びで得たものを、論文としてまとめる。				○	HR	HR	担任				
28	1月24日	水	6	1	富士山学Ⅲ	論文提出	進学後の生活設計を立て、社会で必要なマナーを学ぶ。		○			HR	HR	担任	論文2次提出		③	③
29																		
30																		
31																		
32																		
33																		
34																		
35																		

## 吉田高校 富士山学について

### ● これまでの取り組みについて

#### 【 授業 】 総合的な探究の時間



#### 最終成果

- ・ 2年生：富士吉田の食文化（御師文化）を伝えるためにアンケートの実施、給食にて提供
- ・ 1年生：子育て施設での親子向けイベントの実施

#### 【 有志 】 かえる組（参加生徒）

ふじよしだ PR 大使（地域の魅力ポスター制作）／超かえる組（外国人観光客への調査・企画立案）



#### 【 昨年度の富士吉田アンケート結果 回答数 377 名（1・2年生）】

- ・ 「授業は自分や将来に活かされたか」という質問で全体の半分以上、272 人生徒が「活かされた」と回答
- ・ 「地域のために活動したいか」という質問で、280 人（授業前 148 人）に増えた！

### ● 今年度の取り組み

- ・ 対象：吉田高校 2 年生・1 年生
- ・ 内容：各学年 39 時間で地域を知り、地域を探究する

吉田高校 2 年生 ▶ グループごとに地域探究（医療福祉/地場産業/交通/子育て/防災など）

吉田高校 1 年生 ▶ 前半地域講演会（地域のインプット）・後半グループに分かれ探究

## 令和4年度 総合的な探究の時間「富士山学Ⅱ」プロジェクト223 #ふじさん

(吉田高校 × 富士吉田市商工会議所青年部)

ねらい ①地域の取り組みと活動する方々の想いを知り、生徒たちの視野を広げる。

②多様な人からのアドバイスを聞き、今後の自分たちの取り組みに生かす。

1 日時 令和4年6月15日(水) 13:55～15:35 (6・7校時)

2 場所 吉田高等学校 各教室

3 対象者 2年生 236人 (1年生→6校時のみオンライン参加)

4 実施方法 ・15講座における「講演」(6校時)と  
「プレゼン&フィードバック」(7校時)

5 授業内容 ①これまでの活動や仕事、取り組みの紹介を聴く。

②チームで考えたアイディアのプレゼンとフィードバック

6 備考 講演の時間は正味30分ほどで実施し、6校時以内で終了する。

7校時は、1チーム3分でプレゼン、5分でフィードバック(質問・助言など)を行う。



	講師名	ジャンル	紹介文	会場【担当教員】	フィードバック班					生徒人数
1	北田萌	コワーキング	キャップクラウド株式会社 多種多様な人との出会いが生まれる、地域の新しいコミュニティハブとなるコワーキングスペースの運営	大会議室 【赤池和佳奈】	806	807	808	809		13+36
2	桑原良	酒屋	創業120年大津屋酒店です。 自由業を目指し、現在13個の仕事掛け持ちしております。	2年3組 【渡邊浩一】	501	502	503	504		18
3	渡辺果林	飲食	【古民家やまと】 忠霊塔の麓で元保育園、園長の母と 飲食店を(takeoutも)営んでいます。	社会科教室 【藤田晴彦】	301	302	303	304		19
4	高村光	マッサージ	(株) おもしろ企画室 改訂版『600円しかないボクがどうやって会社を作ったか』	音楽室 【宮下一幸】	810	811	812	813		15
5	白須一政	馬車	馬力屋 『馬たちに愛を』テーマに富士吉田伝統の流鏝馬神事の馬たちと歩む	中庭/化学講義室 【宮川卓大】	801	802	803	805		15
6	江見崇	学習塾	武田塾富士吉田校 「日本初！授業をしない武田塾です。個別に勉強を管理し偏差値40から関学に合格を達成。最短最速で成績を上げます。」	2年5組 【根津真一】	405	701	702	703		16
7	鈴木智華	エンタメ	(株) アミューズ コンテンツを創造し、それらを様々なかたちで世の中に届ける事業	2年1組 【徳満裕樹】	101	102	103	104		16
8	萩原健	介護	(株) H.C.S 高齢者福祉事業 地域密着型通所介護デイサービス 四つ葉のクローバー	2年4組 【堀内寛子】	601	602	603	604		12
9	山崎博之	織物	山崎織物(株) 郡内織物の生産、自社製品ブランド富士校工房の製造販売	2年2組 【日向敦子】	201	203	205	207	208	21+36
10	羽田友太	飲食	「あなた好みの味がきつとある！らー麺、つけ麺専門店」	物理実験室 【長田敏夫】	305	306	307	308		19
11	小林佑輔	オーダースーツ	スーツなど紳士服の「オーダーメイド専門店」	選択3教室 【羽田あゆみ】	202	204	206	408		15
12	羽田豊	リゾートホテル	ハイランドリゾート株式会社 「ハイランドリゾートホテル&スパ」、「ホテルマウント富士」、「富士ゴルフコース」を運営しています。	選択4教室 【古屋直子】	401	402	403	404		13
13	大原弘士	文具	文具のオオハラ 皆さんの生活を豊かにする、定番から新製品まで、文房具の販売	美術室 【土屋美昭】	814	815	816	817		13
14	木川貴	車両電装	シーイーエス富士電気株式会社 自動車を安全・快適・便利にする電気装備・制御装置の専門店	リスニング室 【小松秀幸】	105	106	406	407		14
15	鬼頭功	飲食・ボルダリング	INTI ・飲食店 可能な限り地産、国産にこだわり無農薬野菜を使用しての オステリア&カフェ・バー ・アウトドアSHOP 登山・クライミング・スノーボード・サーフィン ・その他 ガイド・スクール	物理講義室 【成島未彩】	309	310	311	409		19

## 富士吉田商工会議所青年部との連携活動 振り返りアンケート結果

### 設問 1 参加した講座を選んでください。

未回答を含める 回答数 206

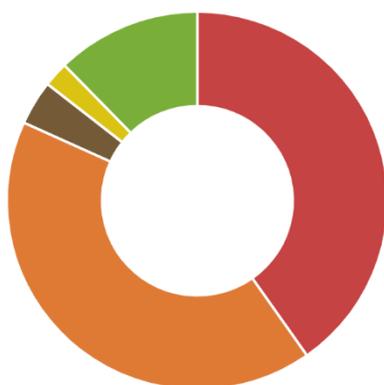


- 選択肢 1 11人(4.66%) 「働き方パーソナライズ」～「働く場所」と「働く時間」の選択肢を増やす～
- 選択肢 2 18人(7.63%) 自由業を目指そう！
- 選択肢 3 19人(8.05%) It's show time!
- 選択肢 4 9人(3.81%) 改訂版『600円しかないボクがどうやって会社を作ったか？』
- 選択肢 5 14人(5.93%) 馬いる 生まれるスマイル
- 選択肢 6 12人(5.08%) 受験に向けての成績UPの方法について
- 選択肢 7 7人(2.97%) 新しい取り組み
- 選択肢 8 11人(4.66%) 介護の本当の仕事～3Kとは～
- 選択肢 9 20人(8.47%) 郡内織物の歴史とこれから

- 選択肢 10 18人(7.63%) 愛
- 選択肢 11 14人(5.93%) 仕事・場所選び
- 選択肢 12 13人(5.51%) ホテルのお仕事について
- 選択肢 13 11人(4.66%) 「捨てる力」～当たり前を捨てることで学習や仕事で得られること～
- 選択肢 14 12人(5.08%) マンガ好きが転生したら社長になった件 SEASON2
- 選択肢 15 17人(7.2%) 挑戦
- 未回答 30人(12.71%)

### 設問 2 参加した講座への満足度を選んでください。

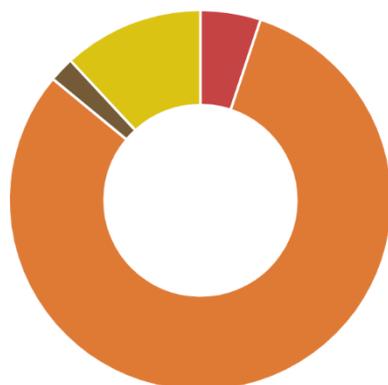
未回答を含める 回答数 207



- 選択肢 1 95人(40.25%) 大変満足だ
- 選択肢 2 98人(41.53%) 満足だ
- 選択肢 3 9人(3.81%) あまり満足でない
- 選択肢 4 5人(2.12%) 満足しなかった
- 未回答 29人(12.29%)

設問 3 講座の設定時間について当てはまるものを選んでください。

未回答を含める 回答数 208



- 選択肢 1 12人(5.08%) 長すぎた
- 選択肢 2 191人(80.93%) ちょうど良かった
- 選択肢 3 5人(2.12%) 短すぎた
- 未回答 28人(11.86%)

設問 4 講座のスタイルについて、当てはまるものを選んでください。

未回答を含める 回答数 208



- 選択肢 1 102人(43.22%) 大変わかりやすかった
- 選択肢 2 93人(39.41%) わかりやすかった
- 選択肢 3 13人(5.51%) わかりにくかった
- 選択肢 4 0人(0%) 大変わかりにくかった
- 未回答 28人(11.86%)

設問 6. 講座の内容についての感想を書いてください。(思ったことを自由に書いて結構です。)

〈講座 1〉

- ・今の時代は働き方が選べる時代であり、働き方は一つではないという考え方がすごくすきだなあと考えた。
- ・ほんとうに仕事が楽しいという思いが伝わってきて、コワーキングスペースを活用してみたいと思った。
- ・今まで思っていた働き方は、ほんのひとつの働き方であって、もっと多くの働き方があると知った。
- ・自分の好きな場所で働いたりすることで、効率が上がるって素晴らしいなと思った。
- ・自分の中にあった働き方の固定概念が覆されました。仕事場所も時間も自分で選べるようになってきていることに驚きました。

〈講座 2〉

- ・13個もの仕事を熟す異色の経歴を持つ人の話を聞くことができ、とても面白かった。難しいことにもやる気を持ってやろうと思えた。
- ・段取りを組む前に色々修正できそうで良かった
- ・たくさんのことをやることは難しいと思っていたが自分の意志によっていくつでもできると思いました
- ・たくさん仕事をすることで、経験が詰めることが分かった。
- ・最初は13つもこなすのは本当に可能なのかと疑問を抱いていましたが、話を聞くにつれそれが可能なのだと気づきました。

〈講座 3〉

- ・自分の身近な人からは学べない話だったので、新鮮だった。
- ・海外経験豊富で滅多に聞けない話だった
- ・食と地域について改めて考えることができた
- ・15歳でアメリカに留学したというのを聞いて、貴重な体験をしてきた先生がすごいと思った。
- ・分かりやすくかつとても面白くこれからの活動に役立つ話でした。経験することを大切にしていきたいと思いました。

〈講座 4〉

- ・努力をすれば必ず報われるが、それがいつかなうのかは人それぞれ違うから報われるまで頑張りた
- い。
- ・講座よりかは高村さんの過去の話がとても面白く何事にもくじけない気持ちが伝わりました。
- ・富士山学だけでなく、自分の将来にもつながる内容でした。
- ・フランクな方で内容が素直に入って来た。普通ではない体験をされてきた方だったので、学びが多く、有意義な講座だったと思う。
- ・聞いていて全く飽きなかった。楽しみながら話を聞くことが出来た。

〈講座 5〉

- ・馬に触れることは中々なくて、幼稚園以来だったが、とても楽しく馬について学ぶことができたのでよかった。地域の特徴を生かした斬新なアイデアで感心した。
- ・馬はもっと大きくて怖いイメージが少しあったが、少し小さめでかわいくて優しいイメージが変わっ

た。

- ・はじめて馬と触れ合ったが、とてもかわいくてすぐに慣れた。講師の方々もとてもやさしかった。
- ・講座では初めて馬に乗りました。伝統を繋いでいくのはやっぱり難しいと思いました。
- ・地元のことなのに知らないことが多いなと思った。伝統の担い手が足りなくなってしまってるという現状をまじまじと感じさせられた

#### 〈講座6〉

- ・山梨県の受験の現状などの普段は知れないことを知ることができて、とてもいい刺激を受けることができました。また良い勉強法を教えてもらったので、それを実践して成績を伸ばせるように頑張りたいです。
- ・武田塾さんの経営方針である「授業をしない」というものは、進学校で跋扈している授業、課題至上主義からの脱却という点において大変有意義に感じられました。
- ・受験に向けての勉強方法についてとても参考になった。
- ・山梨がすごく田舎なんだと自覚した。こんな田舎から難関大を目指すことはかなり厳しいということを入れて勉強したい。
- ・勉強法や学力アップの方法についてとても参考になった。

#### 〈講座7〉

- ・自分達には考えられなかったアドバイスなどが沢山いただけて、とてもこれからの参考になりました。
- ・とても、わかりやすく話をしてくださってわかりやすかったです
- ・とても役立った。これから何をすればいいのかよく分からなかったが、頂いたアドバイスをもとに、グループのみんなと話し合い、進めていきたい
- ・どうやったら人が集まるか、人を楽しめることが出来るかを限られた時間でアイデアを出しているのがすごいと思った
- ・他人に頼る力を育てることが重要だというのが、特に印象に残った

#### 〈講座8〉

- ・介護についての表しか見ていなかったのだと改めて感じました。サポートするための心がけや、目指しているものを知ることができて介護についての印象が変わりました。介護はこれからの社会でとっても需要があると思うので専門的なことでなく一緒にお話をするなど私たちにできることをやっていきたいと思いました。
- ・講座を通して、自分の視野はまだ狭く、自分視点でなく伝える相手目線で話をするのが大切だと学んだ。相手に寄り添えるような広いところをもって生活したいと思った
- ・講座を聞き、今までの介護に対する固定観念が覆されたように思えた。今までは、支援をするだけの仕事だと思っていたが、自立支援を促すことが、重要であると知ることができた
- ・介護が感謝と感動に会える仕事とういことを初めて知った。大変なイメージがあったので新鮮だった。これからはボランティアなどにも参加していきたいと思った。
- ・介護に対するイメージが変わったし、今後の課題探求に役立つような情報がたくさんあったのでよかったです。
- ・介護は、自分には遠い問題だと思っていたが、身近で誰でも「する側」「される側」になるんだなと

気づき、ハッとした。私は子ども食堂についてやっているの、介護とは関係ないと思っていたが、繋がる部分が多いと思った。

〈講座 9〉

- ・今までは調べても、織物の一部しかわからなかったけれど、他とは違う柄の織物を作っていたり取り組みをしたりしているということがわかりました。
- ・機織り というテーマについて決めたのはなんとなくだったけれども、色々なことを教えていただけて、これまで以上に機織りに対する興味が湧いた
- ・聞いたことがないことばかりでとても新鮮だった。退化させないように様々な工夫をして退化させないようにしていることが分かった。
- ・実際に産業に携わる大人から自力で調べるだけでは分からない事を聞くことが出来て、勉強になった。
- ・郡内織物について発祥から現状まで詳しくわかりやすく知ることができた。
- ・とても分かりやすく、的確なアドバイスももらえたので、充実していました。参加して良かったです。

〈講座 10〉

- ・愛を感じて、家族とか友達とかを自分も愛そうと思えた。
- ・主観だけで物を言わずに、相手のことを考えることや、目標を持って過程を大事に進んでいくことが大切だということがわかりました。
- ・自分一人ではできないものも友達や家族などたくさんの支えがあることで成し遂げられると知れた。
- ・たくさんの苦労の中に成功があることを学びました。
- ・食に関することから愛についてまで、たくさんのことを学ぶことができ、とても有意義な時間になった。

〈講座 11〉

- ・人脈が大切だと言っていたことが印象に残ったので、将来多くの人と関わりが持てるようになりたい。
- ・自分のしたいことを追いつけること、その自分の気持ちに正直であることはとても大切で素敵なことだと思った。
- ・小林さんは自身の経験を素直に語ってくれて、とても親密感を感じた。様々な経験をした小林さん独自の目線でアドバイスをしてもらったり、意見を聞くことができたりして、本当に有意義な講座だと思った。
- ・講座を通して、地域愛が大切だと感じた。まずは自分がこの地域の良さに触れて、地元のことを誇れるようにしていきたいと思った。
- ・社会人になった時の自分を想像しながら話を聞き、なんとなくビジョンが見えた気がした。

〈講座 12〉

- ・ホテルの話や商工会議所の方の話を聞いて、語学力の重要性について実感しました。
- ・普段はなかなか知ることの出来ない経営の裏話を聞くことが出来て良かった
- ・”ホテルの仕事”という講座で、いまの外国人観光客や国内の観光客の内情をしることができた。これを募金活動にうまくつなげられたら良いなと思った。

・お客様の立場になって考え、思い出のワンシーンの脇役のような存在でいたいという気持ちが素敵だとおもった。

・外国人観光客を良い状況で迎えるためには、言語の壁をなくすことやサービス精神が大切だということが分かった。配慮をすることで、外国人はより安心して旅行をたのしめると思うし、自分たちも外国人との距離が近くなりいいと思った。

〈講座 13〉

・勉強だけでなく、普段の生活でもとても役に立つようなことを教えてもらいました。捨てるというのは、自分の可能性を広げることだと知りました。将来に向けて、目標への階段を昇れるように考えながら生活していきたいです。

・何かをする時、目標は必要だが、限界を決める必要はないことがわかり、とても感銘をうけた。

・捨てるという言葉は決してマイナスの意味ではないということを知って改めてどういうときに捨てるか考えられた

・体験談を踏まえた発表だったので説得力があり、わかりやすかった。

・限られた時間の中で自分の可能性を最大限に生かすという話がとても心に残った。

〈講座 14〉

・話に引き込まれるような内容で、とても面白かった。

・講座の中では、お客さんの求めているものなのかを意識していくことが重要であることが分かった。はじめは私の探求テーマである「外国人労働者」の観点から参考にできると考えていたが、私たち自身も、地域の方々の求めているものは何なのかを意識して活動していくことで、より実用的な成果物をつくることができると思った。

・広い視点から見た、社会人の方からの意見は自分たちの視野を広げるのに役立った。

・趣味を仕事に活用する方法が分かってよかった。

〈講座 15〉

・とても熱い講座で、鬼頭さんの熱量がよく伝わってきた。「世界にはこんな経験をした人もいるんだ！」と新たな世界を知った気持ちになった。

・単身でアルゼンチンに行ったのが凄いと思った。思い切ったら即挑戦する姿勢がかっこいいと思った。

・日本人を対象とした観光の制度や吉田の「織物・富士山・うどん」以外でもっと深い部分をPRしていたことに驚いた

・高校卒業してからすぐに海外に留学に行く行動力がすごくて、マネしたいと思いました。

・私も思い立ったらすぐ行動できる行動力が欲しいです。海外に限らずに、どこか離れたところに住んでみるのは、自分にとって良い経験となり、将来やってみたいことが見つかるのかなあと考えた。

# 令和5年度 第1回吉田高等学校学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和5年4月15日(土)
- 2 場 所 吉田高等学校朝日子ホール
- 3 時 間 午前9時30分より午前11時40分
- 4 参加委員 11名(敬称略)  
鶴田 清司(会長) 村松 悟(副会長) 井出 智子 中村 義仁  
高村 明成 高保 裕樹 正木 啓子 栗井 晶子 萱沼 孝夫  
渡邊 太郎 権太 正弘(校長)

## 5 次 第 司会 野澤俊英

- ① 開会の言葉(司会)
- ② 委嘱状交付
- ③ 学校長あいさつ
- ④ 学校運営協議会委員、学校職員紹介
- ⑤ 吉田高等学校学校運営協議会会長等選出(互選)  
会長・副会長挨拶
- ⑥ 議事(議長 鶴田清司会長)
  - (1) 令和5年度吉田高等学校学校運営方針について (校長 権太より)
  - (2) 令和6年度生徒募集について (校長 権太より)
  - (3) 令和5年度吉田高等学校学校評価計画について (教頭 野澤より)
    - 1 令和4年度学校評価報告書について
    - 2 令和5年度学校評価報告書について
  - (4) その他
    - 1 令和4年度卒業生及び過去5年間の進学実績について
    - 2 「総合的な探究の時間」等について
- ⑦ 報告事項
  - (1) 令和5年度年間行事予定について
  - (2) その他
- ⑧ 閉会の言葉(司会)

## 6 議事録

### (1) 校長挨拶

- ・4月に赴任以来、吉田高校が地域から非常に期待されていることを強く感じている。今後も、地域とともにある学校を目指していきたい。
- ・令和5年度の教育目標・学校経営目標・指導重点の案を後ほど提示させていただくので、審議をお願いしたい。
- ・総合的な探究の時間の運営については、地域の方々・関係諸機関から理解・協力をいただき、深く感謝している。
- ・本日の協議会で様々な意見・提言をいただき、今後の学校経営に生かしていきたい。

(2) 学校運営協議会委員、学校職員紹介

- ・学校運営協議会委員は自己紹介、学校職員は事務局が紹介した。

(3) 吉田高等学校学校運営協議会会長等選出（互選）

- ・会長に鶴田清司様、副会長に村松悟様が選出された。

(4) 議事

①令和5年度吉田高等学校学校運営方針について

校長が資料に基づいて、吉田高校のミッション、スクールポリシー、グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー、学校経営目標、今年度の指導重点等について説明を行った。

(説明後)

令和5年度吉田高等学校学校運営方針が承認された。

②令和6年度生徒募集について

校長が、令和6年度生徒募集について説明を行った。

(説明後)

令和6年度生徒募集について承認された。

③令和5年度吉田高等学校学校評価計画について

教頭が、令和4年度学校評価報告書及び令和5年度学校評価報告書について説明を行った。

(説明後)

令和4年度学校評価報告書及び令和5年度学校評価報告書が承認された。

④その他

1 令和4年度卒業生及び過去5年間の進学実績について

教頭が、令和4年度卒業生及び過去5年間の進学実績について説明を行い、委員に意見を求めた。

職員：

本校は難関国立大学への合格実績が以前より低下した。このため昨年度の3月に検討会を開いた。地域の中学生の一部に甲府市等の私立高校に進学する傾向があること、コロ

ナ禍であったこと、持続的な指導体制がまだ築けていないことなどが理由としてあげられるが、委員の皆様のご意見を伺いたい。

委員：

東大や京大などの難関国立大学合格者数の低迷は山梨県全体でもそうである。山梨県は公立高校がその進路指導をしているが、コロナ禍でそれができない状況であった。しかし、都市部は塾や予備校等がそれを担っている。理由はそのためであろう。吉田高校は指導体制に問題があるとは個人的には思わない。ただ、管理職は授業の視察を絶えず行う必要があるであろう。

委員：

今の生徒は無難な進路を選択してしまう傾向にある。自分の将来に夢を持たず、現実的な選択をしている感じがする。あと1ランク、2ランク上の進路希望を持てるように、生徒を導いてほしい。

委員：

確かに失敗をおそれている若者が多い。職業柄、大学生と話すことが多いが、大きな挑戦をせず無難に生活していることが窺える。生徒が多様化しているのも事実であり、実力があっても自分に相応しい道を選択していると思う。東大へ何人、医学部へ何人という視点で捉えるのではなく、若者そのものが多様化しているという見方も大切である。

委員：

何々大学卒という価値観も大切だが、現実には、自分が何をしたいか、どの仕事に就きたいかということを念頭に、進路を選択している人も増えている。やりたいことを見つけていることが大切で、何々大学へ行くといったことがゴールではないと考える。

委員：

吉田高校の先生方の一生懸命な指導には敬意を払います。7割の普通科の新入生が高習熟クラスを希望したということを知り、その意識の高さに驚いている。「生きて使える知識」を習得させながら、子どもたちが目指す道へ導いてほしい。

委員：

以前は大学の名前で大学進学を決めていたが、今は、何を学びたいかが大学選択の基準になっており、この点は評価できる。そういった生徒が増えてきたことは健全なことである。このような状況を踏まえ、進学実績をあげてほしい。

## 2 「総合的な探究の時間」等について

総合研修主任が、「総合的な探究の時間」等について説明を行い、委員に意見を求めた。

委員：

山梨県の「総合的な探究の時間に係る研究会」に所属しているが、県下の様子が伝わってくる。総合的な探究の時間の運営については、困っている学校が多い。ここは人間力が問われている分野だと考える。必要なのは、主体性を尊重しつつ、意欲的に表現できるよう人間を養成することである。与えられるものをこなすよりも、自主的に発信する力が何よりも大事であり、成果物がものを言う。総合的な探究の時間において、自主的に行動でき、主体的に探究することができる人材を養成できる仕組みをぜひ作ってほしい。地域と連携しながら、そういった人間を養成できるプログラムが必要である。富士吉田市だけでなく、富士河口湖町、山中湖・忍野、さらには都留市や上野原に至るまで巻き込むと良い。支援できる保護者も大勢いる。

委員：

プロジェクト223は、今年度4年目を迎える。内容的に、以前よりも充実したものになってきている。富士吉田市商工会議所青年部の活動であるが、約半数の講師は、富士吉田市以外の方である。講義の内容が、さらに良いものになるようにしていきたい。

委員：

理数科の研究発表には足を運んだことがあるが、素晴らしいものだった。富士山学の発表には行っていないが、生き生きと活動していることが資料から感じ取れる。他校では、市の行政に関心を持たせて、その一環として議会を視察しており、議員との懇談会も開いていた。こうした市との連携があっても良い。

委員：

手話やLGBTに関する知識も必要である。障害を抱えた人との関わりもあっても良いのではないか。人間は挫折することもあり、それを克服していかなければならない。人間力を高める上で様々な人との出会いは大切だ。

委員：

私が関与している組織では、ユニバーサルマナー講座を開講し、大変人気がある。人間力やコミュニケーション能力を向上させることが大切なことに生徒たちは気づいている。高校生活の3年間で、「やったことがある」「知っている」ことが、人間力の向上に直結する。様々な経験や出会いの機会を創出してほしい。

委員：

自分で調査・分析し、よく考えて発表まで行うことは大学生でも難しいことである。人間が考えなくなることはとても怖いことである。吉田高校のGP（グラデュエーションポリシー）に基づき今後も指導をしていただきたい。

### 3 その他

委員：

吉田高校の教育を充実させるために、生徒の定員は大きなファクターである。生徒の定員確保に努めて頂きたい。吉田高校の定員が減少することは山梨県の損失に繋がると考える。

委員：

本校の生徒数は320から280、そして240へとその減少をたどってきている。特に280へ減少したときは驚きであった。吉田高校の定員は減らして欲しくない。また、前期募集方法において課題があるのなら出していただき、ここで一緒に考えていくようにしたい。さらに、吉田高校全般の課題があるのなら、同様にここで出していただき、考えることが重要である。吉高GPの評価は、質問に具体例を入れ、イメージさせるものにするとう評価が変わってくるのではないかと。

委員：

学園祭について意見がある。以前、仮装行列をして、市内を巡った時代があった。それを見たある中学生が吉田高校を受験したそうである。要するに、蒼風祭を活用して吉田高校をもっとPRしたらどうか。吉高を受ける生徒が増えるのではないかと。

委員：

吉田高校には、力のある先生が必要である。国中の有能な先生に来てもらえる体制作りが必要ではないかと。

職員：

いただいた意見について、実現できるかどうかを検討したい。定員に関しては、努力する所存であるが、県全体としても生徒減少は進んでいく。このことも踏まえつつ、定員維持を図っていきたい。

委員：

この協議会は人事に関しても提言ができるのである。そのこともご理解いただきたい。

#### (5) 報告事項

##### (1) 令和5年度年間行事予定について

事務局が令和5年度年間行事予定について説明した

以上